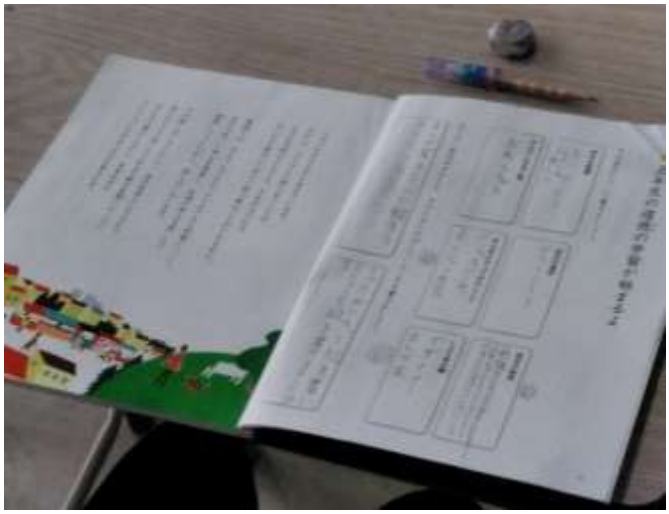
「向き合うことは書くこと」～考え、議論する道徳の授業研究～

〇5月１０日

道徳が教科として行われるようになり1年が過ぎました。

「がんこちゃん」や「さわやか3組」をTVで見ていた時代から比べると、ずいぶんと授業の様子も変わっています。

参観日に授業を見られた方も多いと思いますが、何より書くことや話すことが多くなりました。下に載せた道徳の教科書には書き込み欄がたくさんあります。



では、なぜ道徳の時間に書くことが多くなったのでしょう。

それは道徳の目的の中に「自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める」というものがあるからです。自分と向き合うための手段の一つが＜書くこと＞であるのです。

＜書くこと＞は表現の一つですが、表現・表出というものは、自分の内から出て形をなしたものです。ただ、形にするまでには自分の中で整理し並べたり、取捨選択・判断したり、補い付け足したりと様々な工程が必要になります。それらの作業が自分と向き合うということであり、大きく見れば考えている状態なのです。

ある日の5年生の授業では、ワークシートを使っていました。これは効率的に書かせる（考えさせる）ためと、書いたものを記録として残しておく（後に自分で振り返る）ためです（振り返りも自分と向き合うことなのです）。

今年の西小学校は学校全体で道徳の授業について研究していきます。目的は子どもたちの健全な成長…。進化する授業を楽しみにしていてください。

（文字が多くなり申し訳ありません）